

## 1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- 【中期目標・指標】  
全国平均より+5ポイント
- 【短期目標・指標】  
全国平均±0ポイント

## 3. 指標にむけての取組

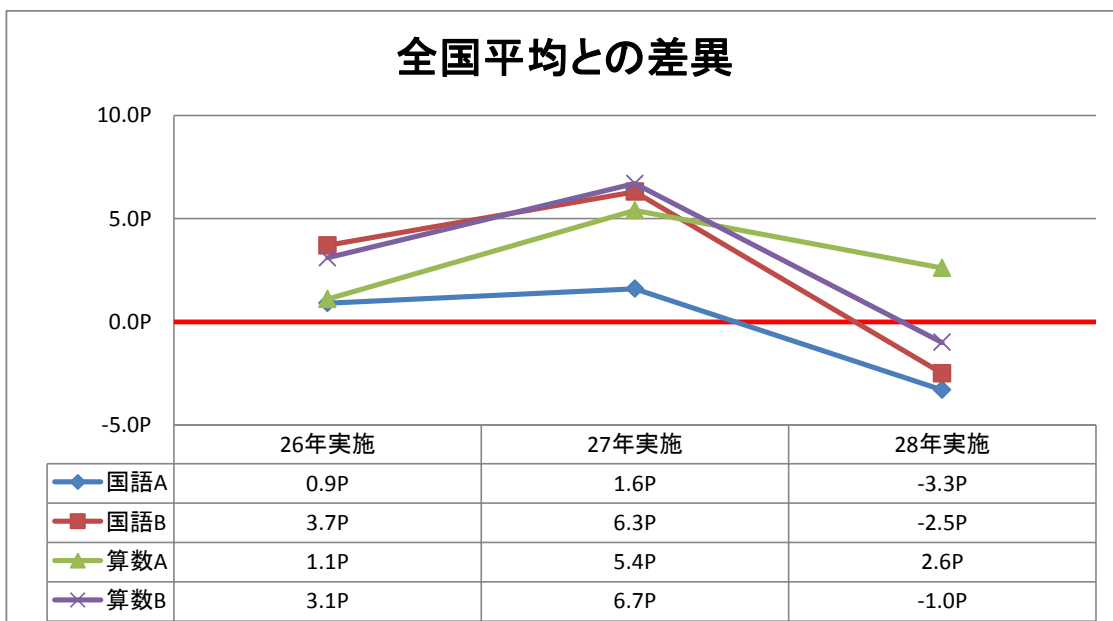
- 指導方法の工夫(算数科のすべての単元における、習熟度別3分割授業の実施)
- 学力調査問題、活用力診断テスト教材集、県学力調査フォローアップシートの活用
- 補充学習(単元テスト70点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施)

## 4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

教科名	国語A	国語B	算数A	算数B
本校(A)	69.6	55.3	80.2	46.2
嘉麻市(B)	65.3	51.6	72.8	41.9
(A) - (B)	4.3	3.7	7.4	4.3
福岡県(C)	71.7	57.8	77.8	47.3
(A) - (C)	-2.1	-2.5	2.4	-1.1
全国(D)	72.9	57.8	77.6	47.2
(A) - (D)	-3.3	-2.5	2.6	-1

## 全国平均との差異



## 5. 各学校における分析

どちらの教科においても、現在の6年生に重点を置いたこれまでの取り組みの成果が表れたことは明らかであるが、以下のような課題が明らかになった。

### 【国語科】

- 領域別にみると「読むこと」の正答率70.3%に対し、「話すこと・聞くこと」49.4%と20%以上の開きがあった。
- 問題形式では、「選択式」の正答率57.6%に対し「記述式」の正答率51.8%で、全国の傾向とほぼ同じであった。正答率の低かった問題の共通点は、条件付き作文であること、条件に合った文章が書けていないことが課題であると言える。

### 【算数科】

- 評価の観点別に見ると「知識・理解」の正答率65.5%に対し、「数学的な考え方」の正答率40.6%と25%近くの開きがあった。
- 問題の形式別では、「選択式」53.5%「短答式」64.8%の正答率に比べ、「記述式」の正答率は27.6%と極端に低くなっている。算数科においても、算数に関する知識だけではなく、国語力も必要とされるため、今後とも表現力や思考力を育てる取り組みが必要である。

## 6. 各学校における今後の取組

### 【検証改善サイクルの実施】

- 国語科A問題で特に正答率の低かった漢字の読み替えの問題とローマ字の問題について、朝の活動において複数体制で補充を行う。

### 【日常の授業や学校生活における取り組み】

- 指導方法の工夫を今後も継続する。  
(算数科のすべての単元における、習熟度別3分割授業の実施)
- 読みの基礎・基本となる言語事項の取り組みをこれまで同様行っていく。
- 授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。(主題研究の日常化)
  - ・自分の考えを理由や根拠を示しながら書き、交流する。
  - ・条件付きの作文を書く。
  - ・式の意味を書き、交流する。
  - ・学習のまとめを自分の言葉で書く。
- 現在の5年生には、今年度の課題への取り組みとともに、県学力調査の結果をもとに、フォローアップシートの活用を行っていく。

### 【家庭との連携】

- 学力テストの結果の説明会を行い、これまでの取り組みとその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化についての協力を求めていく。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・課題把握、学力向上策、評価改善の妥当性についての研修を実施する。
  - ・校内学力向上推進委員会への指導助言を行う。
  - ・取組状況の確認及び適時性のある指導を継続する。
- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
  - ・効果のあった授業モデルを提示する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。